

08/21 第2期生涯学習基本計画審議会 第4回 計画の基本理念や目指す方向性などの決定について(議論まとめ)

【資料④】前回までのワークショップまとめ

【資料⑤】丹波市生涯学習基本計画 第3章(案)

- ・生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくりの推進に向けた取組について(提言)
- ・丹波市生涯学習基本計画審議会の中での意見
- ・丹波市生涯学習に関するアンケート調査の内容

○審議会の委員の意見等

・岡田委員長

今回提出されている基本理念や目指す方向性の案については、確実に決定しなければいけないというものではない。できるだけ、委員の皆さんのご意見をたくさん聞かせていただき、言葉を作っていくことが重要である。

・岡田委員長

「地域教育ネットワーク」とはということか。

学びや協働を支える人を「コーディネーター」と括ってしまっているのか。

「まなびの土壌」という言葉はどのようなものか。

・蔦木副委員長

まだまだ、教育を取り巻く現状は縦割りであることがある。

今、コミュニティスクールなど混ざり合っている状況にある。

学校だけでも地域だけでも家庭だけでもない教育のカタチを「地域教育」として普及させていけ、丹波市の新しい教育のカタチを示せると思う。

・足立和宏委員

基本理念に「誰もが」という言葉は入れてほしい。生涯学習の話をするうえで、外国籍の方や、障がいを持っている人たちのこともちゃんとイメージできるようにしたい。

大人や子どもの中にも入っていることはわかるが、「誰もが」の方がイメージしやすいのではないか。

「まなびの土壌」や「ウェルビーイング」は言葉だけではイメージが難しい。

ポンチ画などで示せるのであればいい。

言葉だけではなく、中身についても議論していきたい。

・橋本委員

ウェルビーイングは一般の方にはわかりにくい。
市民に伝えるのであればもう少しわかりやすい平易な言葉を選ぶべき。
市民の人に共感してもらえるようなものが重要。

・岡田委員長

言葉が難しいことは確かにあるが、新しい言葉は言い続けることで定着することもある。
しかし、市民の人が分かりやすい言葉は重要。
インパクトも重要なので、言葉選びは慎重に行うことも必要。

・西垣委員

今の計画には知識循環型生涯学習のことが詠われている。
今までのこのような流れも方向性の中に入れることも重要ではないか。

・山内委員

誰に見せたい計画なのか。
市民の人を巻き込んで進んでいきたいのであれば、みんなが理解できる言葉が重要。
「まなびの土壌」についてもイメージしやすいエッセンスを加えて表現ができないか。

・岡田委員長

「知識循環型社会」は 2012 年の中教審の言葉。
今はそこから「SDGs」で持続可能性が言われてきたが、持続するだけでは持たない。
これからは減っていくこと、なくなっていくことを前提に置いて、そこに住む人たちが良い状態になることが大切という「ウェルビーイング」に移り変わってきた。
こ、ウェルビーイングの向上を生涯学習の視点から目指していくことが大切といわれている。

・立石副委員長

タイトルとしてキャッチーな言葉で表現することは問題ないと思う。
その代わりに、その下でちゃんとかみ砕いて説明することは必要だと思う。

・植山委員

基本理念や目指す方向性の中に知らない言葉があっても説明がしっかりできていればいいのではと思う。市民の方たちを引っ張っていくことにもつながるのでは。
「まち」という言葉が出てきている。個人の成長やまなびが「まち(丹波市)」のためだけというイメージになってしまうことになる。

・岡田委員長

個人の学びが個人だけで完結することはない。いつも社会とつながっている。

人間は社会的な生き物であり、社会とつながっている。

これまでの審議会の議論の中で出てきた意見を目指す方向性の3つのタイトルの中にはめ込んでいった後に、再度議論することでハマる言葉が見つかっていくかもしれない。

言葉の意味や使い方はこだわっていく必要があると思う。

・下野委員

「学ぶ」という目的が若い人と高齢者の方で違ってきていると思っている。

私は、生涯学習は「情緒を育んでいく」ことだと思う。

その土地の民謡や歴史を知ってもらうことで若い人が感じてもらえることがあると思う。

・岡田委員長

「知識」という言葉は体系化された学びなどの印象になるが、情緒など非認知の学びも大変重要。

・大槻委員

「学校・地域・家庭」の書く順番にもこだわりたい。

小学校と中学校でも地域との間のハードルの違いがある。

「学校」が1番であるのか。地域の活動(土日)にも先生が見に来ることがある。

学校や先生の負担にもつながる。

・岡田委員長

「地域学校協働活動」もあえて地域を先に出している。

「支援」ではなくて「協働」

・藤原委員

スポーツクラブのアンケートでも障がいを持っている人たちが一緒になれるものがあるかは問われることがある。

自分は事務局的に動くことが好き。誰かを支える人の大切さもある。

下支えする人も大切にしていきたい。

・足立委員

「やりたいことがこのまちにある」はいいと思うようになってきた。

島根県海士町では「ないものはない」と言い切っている。

「ないものはない」が「やりたいことはある」というのがいい言葉だと思う。

めざす方向性の②の「学びや協働を支える」は「やりたいこと」にしたらどうか。

その方がわくわくする気がする。

・西垣委員

「ひとづくり」のイメージが出にくい。

一番重要だけどこでいいのか。

下支えする人たちの重要性もあるので、人づくりを一番根底において、予算もちゃんと降りるようにすることも重要ではないか。

○次回までの準備

①目指す方向性の中にある程度の課題や施策を書いたものを事務局で準備する。

それを見ながら、基本理念や目指す方向性の言葉を選んでいく。

②クロス集計をできたところから委員に共有する。